**奇抜な髪形から見る金正恩体制の行方**

　北朝鮮が３６年ぶりに開催した党大会から１か月が過ぎた。金正恩氏はおなじみの人民服ではなく、黒いスーツを身にまとい、頭の後ろと両側を刈り上げた「覇気ヘア」という奇妙ないで立ちで、核開発と経済の両立路線を国際社会に訴えた。この独特なファッションと演説内容は何を意味するのか。北朝鮮に詳しい拓殖大学大学院特任教授の武貞秀士氏に読み解いてもらった。

## 祖父・金日成主席にそっくり

５月６日、３６年ぶりに北朝鮮の労働党大会が開催された時、党大会の模様は北朝鮮の朝鮮中央テレビが編集した映像として、世界に発信された。世界を驚かせたのは、金正恩氏のスタイルであった。以前から指摘されてきたことだが、祖父・金日成主席のスタイルそのままなのである。

　その日、金正恩氏は金日成主席が愛用したゆとりをもった大きめのスーツ姿でさっそうと登場した。それまでは人民服で登場することが多かった。原稿を読む身ぶり手ぶり、スーツ姿、髪形まで金日成主席そっくりで驚いた。

　北朝鮮では最近、この金正恩氏のヘアスタイルが注目を集めている。「覇気ヘア」という名前で人気があるそうだ。この髪形は、後ろと両側を刈り上げ、上と前を残して後ろへ流すというスタイル。髪の長さは２センチを超えてはならないという。

　「覇気」を感じさせるスタイルというわけだ。なによりも金日成主席が好んでいた髪形である。北朝鮮内で国民にこの髪形にすることを指示しているわけではなく、香港の新聞によると、「北朝鮮の若者たちの間で金正恩氏の髪形が人気を集めている」そうだ。そういえば４月中旬、筆者が訪問した平壌で観光ガイドたちの髪形が覇気ヘアだった。

　金正恩氏のスーツ姿に対して、父親の金正日総書記は、人民服で通した。人民服は人民のための服であり、経済困難からくる危機管理体制のもとにある北朝鮮では、「人民と一緒に戦う」というニュアンスがある。金正恩氏のスーツ姿は、危機管理体制を乗り越えたというニュアンスを出すという意味があったのだろう。

　党大会での報告で核兵器開発の継続と、核保有国としての責任に触れた後、国際社会に対して「核兵器を持った北朝鮮との対話」を呼びかけた。「軍事と経済」の「」を追うというのは金日成時代と同じ課題を追求していることになる。金日成時代に学べということであれば、祖父・金日成主席の服装と同じスーツにしようと、金正恩委員長は考えたのだろう。

## 正恩流「欧米の流儀」

　見た目だけではない。金正恩氏が後継者となってからの北朝鮮には、新手の政策が目立つ。ミサイル開発に拍車をかけながら、平壌の「未来科学者通り」に高層マンションを建設して、理数系研究者を優遇する措置を講じてきた。中学校、高校では数学、物理学、化学、生物学の学習時間を増やした。科学技術のレベルを増強することこそが、国力アップにつながると確信しているのだろう。

　一方でスキー場、遊園地、ボーリング場を建設して、外国人観光客を誘致し、経済特区拡大などの政策を推進してきた。党大会における金正恩氏の姿は、「国際標準を意識しながら欧米の流儀に学んで、スーツ姿で内外に発信しよう」という演出ではなかったか。それは、金正恩氏がスイス留学時代に身につけたものだろう。

　そのほか金正恩氏の「欧米の流儀」は、いくつも見ることができる。２０１４年１０月、金正恩氏の側近たちが、専用機で「００７」風のイケメンのシークレットサービスを従えて、韓国インチョン・アジア大会の閉幕式に日帰りでやってきて話題になった。

　金正恩氏には、娯楽や外食産業のありかたを考えるとき、イデオロギーや国家間の対立関係とは切り離して考えるべきという方針があるようだ。米国の有名なバスケットボールの元選手を北朝鮮に招待したり、中朝バスケットボール試合を観戦したりしてきた。

　バスケットボールは「帝国主義・米国」の国民的スポーツのはずである。先週は、米国で始まったスポーツであるバレーボールの試合を、平壌で観戦した。日本食である鉄板焼きの店を増やすように指示を出したり、日本人のすし職人を平壌に招待したりして、話題になった。

　筆者は４月、平壌市内の話題のビヤホールに行く機会があった。４月１０日の平壌マラソンを終えた欧米ランナーたちで満員の盛況だったが、店には趣向を凝らした６種類のビールのサーバーが備えてある。客の好みに応じてジョッキに注いでくれる仕組みだ。このビヤホールは市民の間で人気だそうで、ささやかな「多様性」を市民たちは経験している。

　そういえば、平壌市内ではタクシーの数が増えているし、市民の服装がカラフルになっている。平壌地下鉄に市民と一緒に乗車しても２年前の訪問時よりは、市民が「外国人慣れ」しているようにも感じた。

　では、金正恩氏はもはや人民服を着ないのか。５月１０日、労働党大会終了の翌日、平壌の金日成広場でのパレードには人民服姿で登場した。「人民とともに経済建設を行う指導者」という一面を強調することを忘れたわけではない。

## 行方を占う四つのポイント

党大会を終えた北朝鮮はどの方向をめざすのだろうか。

　それを読み解くヒントとして、労働党大会が終わって、次の四つのことが明らかになりつつある。

　第１に、金正日総書記時代、経済再建の実績が十分ではなかったので、党大会を開催することはなかった。今回は金正恩体制が自信をつけたので、３６年ぶりの党大会を開催した。

　金正恩体制は「科学技術強国」を目標に掲げ、核実験とミサイル開発を続けながらも経済は３年間、プラス成長を続けた。側近の粛清、登用、左遷、を繰り返して体制の基盤が固まったと判断をした。

　金正恩氏は、第一書記から労働党委員長という新しいポストに就いた。党中央委員会政治局常務委員として崔竜海党書記と朴奉珠首相が新たに選出され、５人体制となった。これは軍、党、経済、外交の責任者をバランスよく常務委員にしたことを意味している。党中央委員の１２９人の１人に、金正恩氏の実妹である金与正・党副部長を選出したことも、今後の金正恩体制を見通すポイントだ。金与正氏は、これまで以上に重要な行事や会議を取り仕切ることになる。

## キーワードは金日成

　第２に、党大会は金正恩氏のスーツ姿に象徴されるように「金日成主席」がキーワードであった。正恩氏は今後、より明確な形で金日成時代の統治方式を意識した政治を始めるだろう。

　最高人民会議常任委員長の金永南氏が金正恩氏のことを「２１世紀の太陽」と呼んだことも見逃せない。北朝鮮では太陽とは金日成主席のことであり、太陽節は金日成主席の誕生日である。金正恩氏が祖父に近づいた、と金永南氏は述べたのである。今後、外交分野においても、金日成主席のスタイルが目立つようになるのではないだろうか。中国とロシアを競合させつつ、北朝鮮への投資規模を拡大させてゆく手法や、非核化提案を片手に対米協議の糸口を求めるという戦略である。

## 米韓との関係改善探る

第３に、活動総括報告で示されたように、北朝鮮は米国と韓国との関係改善の道を探るはずだ。活動総括報告で「わが国は、侵略的な敵対勢力が核で自主権を侵害しないかぎり、先に核兵器を使用しないだろう」と述べた。相手が核兵器を使用しなければ、北朝鮮は核兵器を使用しないという宣言だ。

　３月、北朝鮮は韓国で始まる米韓合同軍事演習について「実施するなら米韓両国に無差別の核攻撃を実施する」との談話を発表していた。核の先制使用を意味する発表である。その後、２か月で、核兵器の先制不使用を明らかにした。米国への協議開始のために秋波を送ったのである。「責任ある核保有国として核拡散防止の義務を忠実に履行し、世界の非核化実現に努力する」とも述べた。ただし、「自主権が侵害されないかぎり」と付け加えてある。

　北朝鮮は在韓米軍が韓国に駐留したり、米韓同盟が存続していたり、米韓軍事演習が行われることは、自主権の侵害になると非難してきた。北朝鮮にとっては、いまの時点で核の先制使用をする条件が備わっているということになる。核政策の基本に変わりはないが、姿勢をアピールした文言であった。

　活動総括報告では、韓国に対して「民族自主、民族大団結、平和保障、連邦制実現が祖国統一の道を開くための方針だ」として、対話姿勢を打ち出した。１９８０年の第６回労働党大会のときに、金日成主席が提案した高麗民主連邦共和国の構想を繰り返した部分である。米韓同盟のあとは、韓国との対話が必要になることを考えると、党大会のあとの北朝鮮の課題のひとつは、南北対話であろう。

　労働党大会直後の５月２０日と２１日には、北朝鮮国防委員会と人民武力部が韓国に対して南北軍事当局会談の開催に向けた実務協議開催を提案した。韓国の朴槿恵政権は、北朝鮮が核兵器開発を続けるかぎり対話には応じない姿勢を堅持しており、南北対話は状態のままである。

## 中国へ大使を派遣。その意味は？

　第４に、党大会を終えた金正恩氏が、中国との関係強化に乗り出したことも注視すべきだろう。李洙●（リ・スヨン）朝鮮労働党副委員長（党国際部長）が中国を訪問し、６月１日、習近平国家主席と会談した。

※●は「つちへん」に「庸」

　北朝鮮は党大会に外国からの代表団を招待しなかったので、党大会の内容を中国に説明するため、労働党副委員長を中国に派遣したのである。中国側からすれば、この時期にリ・スヨン氏を北京に招いたのは、中朝関係の発展に意欲を持っているからである。リ・スヨン氏は「北朝鮮は、朝中間の伝統的友好関係を強化・発展させて朝鮮半島および北東アジア地域の平和・安定を守るために中国と共同で努力することを希望する」との金正恩氏からの口頭親書を伝達した。

　習近平国家主席は「中国の朝鮮半島問題に対する立場は一貫しており明確だ。関連当事国が冷静と自制を維持しながら対話と疎通を強化することによって地域の平和・安定を守ることを希望する」と述べた。北朝鮮問題に関連して、米韓の対応をしているのである。

　「中国は中朝友好協力関係を高度に重視する。北朝鮮と共に努力して中朝関係をしっかり維持し、強固にして発展させていくことを希望する」「北朝鮮人民が経済を発展させて民生を改善し、北朝鮮の社会主義事業の建設過程での成就をお祝いする」と党大会での報告を全面的に称賛する言葉も添えた。

　リ・スヨン氏の訪中と習近平国家主席の対応について、外国のメディアは、「中国が北朝鮮に対して核兵器の実験の自制を求めた」と報道していたが、そのようなことはない。６月５日、シンガポールで中国人民解放軍の孫建国副参謀長が「北朝鮮のミサイル発射に対抗するために、米国が韓国にＴＨＨＡＤ（高高度防衛ミサイル）を配置することは、中国の戦略的国益にそぐわない」と米国を批判した。このことに見られるように、中国が北朝鮮の動向と関連して「関係諸国が冷静さを保つべき」という時は、「中国の国益」の文脈で述べていることに留意すべきだろう。「北朝鮮のミサイル実験に対処するためと称して、ＴＨＨＡＤを韓国に配備することは断念すべきである」という意味である。

　リ・スヨン氏と習近平国家主席は、党大会以後の中朝関係をさらに発展させることで一致した。金正恩体制の次の課題のひとつは金正恩委員長の訪中だろう。東アジアにおける「波乱要因」の行方は、日本にとっても見逃せない。